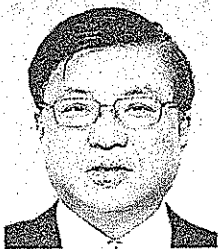


磯崎氏発言を撤回

「法的安定性」で陳謝



磯崎陽輔
首相補佐官

他国を武力で守る集団的自衛権の行使容認について「法的安定性は関係ない」と発言した磯崎陽輔首相補佐官（安全保障担当）は三日、安全保障関連法案に関する参院特別委員会に参考人として出席し、自身の発言を撤回、陳謝した。野党の辞任要求は拒否した。磯崎氏の発言を批判していた公明党は続投を容認する姿勢を示したが、野党は政権の憲法軽視の姿勢を表しているとして、安倍晋三首相の任命責任を追究する構えだ。＝関連③面

磯崎氏は安保法案について、集団的自衛権行使を禁じていた過去の政府見解と「基本的な論理は全く変わっており、合憲性と法的安定性は確保されていると認識している」と説明。その上で「国際環境の変化についても十分配慮すべきだ」と言うところを、誤って『法的安定性は関係ない』と言った」と釈明した。

首相は特別委の後の自民党役員会で磯崎氏の発言に関し「大変、迷惑をかけた。法的安定性のもとより重視

しており、誤解のないようにしっかりとやっていく」と述べた。公明党幹部は記者団に「発言を取り消したなら、これ以上追及しようがない」と述べ、発言撤回を受け入れた。一方、民主党の枝野幸男幹事長は「磯崎氏を補佐官として使い続けるなら、安倍内閣自体が法的安定性を軽く見ていることになる。磯崎問題は安倍問題だ」と記者団に述べた。

首相補佐官が国会に参考人招致されるのは初めて。磯崎氏は特別委冒頭の約二十五分間出席。自ら釈明した後、鴻池祥肇委員長（自民）と民主党の福山哲郎幹事長代理の質問に答えた。